

(学校番号029) 令和4年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【栄和小学校】

4月25日 目標・策		
知識・技能	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より国語・算数の「知識・技能」において1pt以上向上させる。 令和4年度全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「知識・技能」において全国平均と同等以上にする。	⇒
思考・判断・表現	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」において1pt以上向上させる。 令和4年度全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「思考・判断・表現」において全国平均と同等以上にする。	⇒
主体的に学習に取り組む態度	令和4年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	⇒

3 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
知識・技能		⇒
思考・判断・表現		⇒
主体的に学習に取り組む態度		⇒

2 8月31日 全国学力・学習状況調査結果・分析		
<p>国語： 算数： 理科：</p> <ul style="list-style-type: none"> どの教科においても無回答率が高かったため、日頃の授業から「学びの足あと」を残すような声かけ、指導を低学年から徹底して行う。 賞賛の言葉を意図的に増やしながらか子どもたちの「自己肯定感」を高め、自信をもって回答できるように導く。 特別活動(行事や係活動等)を通して、主体的に最後まで取り組めるよう指導し、できたものを児童自身に伝えとともに2学期の個人面談でも保護者に伝えて評価する。 <p>・本題に至るまでにあきらめることのないよう、国語を中心に基礎基本の定着を図る。毎週金曜の朝学習「ぐんぐんタイム」を活用し、全校で足並みをそろえて取り組ませる。</p> <p>・「学力向上カウンセリング訪問」を依頼し、全教職員の研修としてより詳細な分析をいただき、指導いただいた点については普段の授業、そして学校課題研修における研究授業等の視点や手立てにも取り入れるようにする。</p>		

4 2月28日 さいたま市学習状況調査結果・分析		
小3	国語はどの領域も市平均を大きく下回る結果となったが、「我が国の言語文化に関する事項」では平均を上回った。朝学習の成果が少しずつ表れ始めていると考える。算数も平均を下回っているが、ポイントの差は少なかった。	小4
小5	国語・算数・理科・社会の全教科において、市平均を3ポイント以上下回る結果となった。国語では「情報の扱い方に関する事項」は大幅に平均を下回ることになった。全教職員の共通認識を図りながらどこでつまづきがあるのか、課題を明確にする必要がある。算数では多くの領域で平均を下回ることになった。社会では特に「地理的環境と人々の生活」に係る設問が市平均を大きく下回った。	小6

5 2月28日 成果指標に対する達成状況 評価(※)		
知識・技能	今年度全国学力・学習状況調査において国語・算数においては全国平均を下回ったが、理科においては全国平均を上回ることができた。	
思考・判断・表現	今年度全国学力・学習状況調査において、国語・算数・理科のすべての教科で全国平均を下回る結果となった。	
主体的に学習に取り組む態度	今年度児童質問紙において「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問項目に関しては、肯定的な回答が8割以上を超え、学習に関する意欲的な面が見られた。	

6 3月7日 次年度への課題と改善策	
知識・技能	次年度においても朝学習で行っている「ぐんぐんタイム」の計画的な実施を通して、また読書に係る活動を大切にして国語(言葉)を中心に基礎基本の定着を図る。学習用語や言語に係る提示の充実と活用を図る。算数においても「ぐんぐんタイム」の工夫・活用を通して反復・習熟に取り組みながら基礎・基本の定着を目指すとともに、環境整備を進めていく。
思考・判断・表現	全ての教科のベースとなる国語において、言語活動の工夫を図る。相手意識や目的意識を明確にした系統的・段階的な言語活動を設定し、自分の言葉で表現できる児童の育成を目指す。
主体的に学習に取り組む態度	とくに算数においては、問題解決に向け、見直しをもたせるための導入を工夫し、大切にする。児童の興味を引き付けるとともに解決の見通しをもたせ、自力解決する場と時間を設定する。ICT機器を活用した指導の工夫についても継続して行っていく。